

雑司が谷旧宣教師館たより

第 39・40 合併号
2007 年 7 月 1 日号

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷 1-25-5 TEL・FAX (03) 3985-4081

雑司が谷旧宣教師館(旧マッケレブ邸) 建築 100 年

1907 (明治 40) 年、アメリカ人宣教師 J. M. マッケレブが自らの居宅として建築した雑司が谷旧宣教師館は今年建築百年を迎えます。まず、マッケレブとはいったいどんな人なのか、そのプロフィールを『日本キリスト教歴史大事典』(教文館) から引用します。

プロフィール

「マッケレブ McCaleb, John moody 1861.9.25-1953.11.1 キリストの教会(無楽器派)群の日本における宣教の先駆者。レキシントン大学卒業後、1892 (明治 25) 年 4 月来日。1941 (昭和 16) 年 10 月第二次世界大戦のため帰国するまで、東京に雑司ヶ谷ミッションを興し、ひたすら日本伝道に献身した。1907 年ごろ青年の教育を志し、雑司ヶ谷に土地を入手、学生寮を開設した。他方、平塚勇之助の協力を得て、石川、富山、千葉、茨城県などの山村に出かけて伝道。ロサンジェルスで召天。多くの著書があり、*Once Traveled Roads* (1934) では乃木希典の殉死を鋭く批判している。旧住居は雑司ヶ谷旧宣教師館として豊島区により保存されている。」(1324 頁) とあります。

キリストの教会とは

「キリストの教会」とは、19 世紀の初めにアメリカで教会改革や復興運動の中から設立された聖書のみをキリスト者の信仰と生活の規範にすると考えるもので、日本では聖学院や女子聖学院が教育機関として設立されました。



(東面)

100 周年記念事業(19 年度事業予定)

◆雑司が谷旧宣教師館 100 周年記念-マンスリールーコンサート①~⑥

①5 月 13 日(日) 午後 2 時~4 時 「ガーデンコンサートⅢ」(終了)

②6 月 16 日(土) 午後 2 時~3 時 30 分 「ファミリーコンサート」(終了)

③7 月 21 日(土) 午後 3 時~4 時 15 分 「ミューズの贈り物」

[出演] 菅原 章代(マノブラノ) 久住 綾子(ピアノ)

[曲目] ラルゴ、オブラ・マイ・フ(樹木の陰で) : ヘンデル トロイメライ: シューマン、幻想
即興曲: ショパン、恋とはどんなものかしら: モーツァルト他

[定員] 50 名(当日先着順)

④9 月(日程/内容 … 未定) (広報としまをご覧ください)

⑤10 月 20 日(土) 午後 1 時~3 時 「古楽演奏会~いにしへの童話の世界に寄せて~」

中世放浪楽士・ジョン・ルー・ボン・ミュージシャン(東京都ヘブナーアーティスト認定)

[出演] 近藤治夫、駒澤隆

[内容] ルネサンスバグパイプ、ハーディガーディー、
クムホルン、フィドル(バイオリン)による演奏

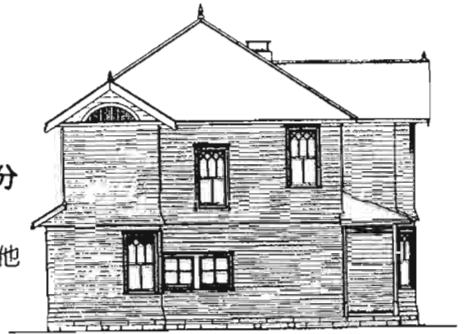
[定員] 50 名(詳細は広報としまで)

⑥11 月 4 日(日) 午後 1 時 30 分~3 時 30 分

「ガーデンコンサートⅣ」 [出演] 佐藤弘和(ギター)

フローラルテット(マントリン) 蒲池悦子(オルガン)他

[内容] 未定 [申し込み] 不要…当日会場まで



(北面)

◆「雑司が谷の紙芝居とブルーベリー摘み」 7 月 31 日(火) 午前 10 時 30 分

~12 時 [定員] 20 名、往復はがきによる申し込み(7 月 25 日必着)

◆「読み継がれる、小川未明『金の輪』絵本展~吉田稔美の世界」

[会期] 10 月 3 日(土)~11 月 25 日(日) 9:00~16:30

[作家による講演] 10 月 13 日(土) 11 月 10 日(土) 2 時~3 時

大正 8 年の出版から 80 余年を経て、絵本化された小川未明の童話、『金の輪』の絵本原画などの展示。伊・ポーロニャ国際絵本原画展入選作家の吉田稔美による作品。

◆『赤い鳥』を語り継ぐ、おばあちゃんのおはなし会 毎月第 1 土曜日午後 2 時~3 時(申し込み不要) *8 月第 2 土曜に変更。1 月は第 2 土曜日。

[編集後記] 住民保存運動により残された旧宣教師館。静謐さを求めるリピーターの多いのが特徴です。コンサートもお薦めです。またお出かけください。(文責 浜地)

初期の活動

それらに先駆けて、マッケーレブや仲間の宣教師たちは来日後、神田や小石川、四谷や千駄ヶ谷などを拠点として布教活動や当時のスラムに住む人々の生活改善を目的として慈善事業を行いました。その後、マッケーレブは日本の将来は立派なクリスチャンとしての品格を備えた青年を育成することから始まると考え、キリスト教精神に基づく青年教育を実現するために築地居留地内の自宅を売却し、2500坪の広大な土地を目白台に求めました。しかし当時の日本女子専門学校（日本女子大学）の校長・成瀬仁蔵は、「女子学校の隣に男子大学生寮は困る」として現在地を代替地として提供します。

雑司ヶ谷へ

マッケーレブはこの経緯を自叙伝のなかで次のように記しています。「私たちは、投機目的で家を買ったのではなく、家が必要だったから買ったのです。1907年に、800ドルの小さな家（1894年に購入）を5,000ドルにて売却しました。500ドルを家族の帰国費用に当て、残りの資金で私が今いる雑司ヶ谷に土地を買い、建物を建てたのです。」



（西 面）

雑司ヶ谷学院

1907年10月、全人格的なキリスト教教育を目的に全寮制を原則とする雑司ヶ谷学院が開校します。雑司ヶ谷学院という校名は友人の勧めで宗教色を抜いたものにしたといわれ、学生は公募により集められました。学生は昼の間はそれぞれの学校で学び、夜間に英語と聖書の授業を必須とするもので当初、寮生13名、通学生5名から始まりました。1923（大正13）年9月1日

の関東大震災で校舎の一部が損壊し、資金的困窮からマッケーレブは学院を閉鎖します。それまでの16年間、東京美術学校朝倉文夫門下生で渋谷駅前の忠犬ハチ作者の彫刻家の安藤照、マッケーレブと親交のあった徳富蘆花の紹介状を持参して入寮してきたもの、学院の舎監をつとめ後に法政大学教授となった満下竜太郎など、芸術家や法曹界で活躍した人々を輩出し、雑司ヶ谷学院は英語を学べる学生寮として日本の近代化を志す若いエリート達に人気があったと卒業生たちが証言しています。

日曜学校と雑司ヶ谷教会

マッケーレブは雑司ヶ谷に移住後直ちに布教活動を開始し、学院開設の翌1908（明治41）年1月26日には近隣の子どもたちを集めて日曜学校を開きます。自叙伝によれば初日は8名子どもが集まったということです。その翌年にはチャペルが完成し、建設費用の6分の1を日本人信者が献金しています。雑司ヶ谷のチャペルでマッケーレブから洗礼を受けたのは160名ほどいましたが、警察の監視が厳しく信者数を過少に報告していたようです。

教会機関誌の創刊

1928（昭和3）年5月、ロサンゼルスからマッケーレブの友人ジョージ・ペパダイン（アメリカ・カリフォルニア州ペパダイン大学創始者）が来日し、マッケーレブが長年切望し続けた印刷機が寄贈されます。同年6月、教会の機関誌『道しるべ』が創刊。その後、日米開戦により帰国を余儀なくされたマッケーレブが日本を発つ直前の1941（昭和16）年10月の160号にいたるまで13年間発行し続けました。『道しるべ』はキリスト教伝道誌としての使命のみならずマッケーレブら宣教師たちの活動や当時の地域の歴史を探るうえで貴重な資料となっています。

雑司ヶ谷幼稚園

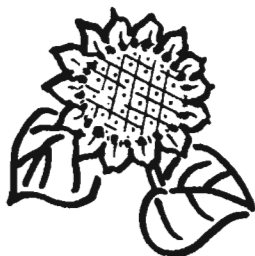
『道しるべ』には雑司ヶ谷教会や関連教会の活動報告の欄があり、創刊号には「雑司ヶ谷幼稚園では保母および助手2名で30名の園児を訓育している」という記載がありました。卒園生達は、「マッケーレブさんは走る格好をして"run"と英語を教えてくれたり、グースベリーが熟すと私達の口に頬張らせてくれました。」と、宣教師たちの保育内容や遠足、お遊戯会やクリスマス会など幼稚園での日常生活を鮮明な記憶として語ってくれます。

住民保存運動

何人かの持ち主が変わったあとの1982(昭和57)年8月、建物を壊しマンションの建設計画が公示された時、地元に残っている卒園生たちは建物の保存を各方面の訴えました。お寺や神社は文化財としての認識を持たれますが、ふだん使っている商業用や生活する建物は公共の財産としての認識が持たれにくく、歴史遺産という見方も希薄のようです。「スクラップ・アンド・ビルト」、つまり建てては壊す建築文化の中では、老朽化が進んだ建物は取り壊されていきます。近代の名建築が合理性・経済性そして機能性を求めて次々と建て替えられるなか、日本建築学会は1980(昭和55)年に『日本近代建築総覧—各地に遺る明治大正昭和の建物—』を公刊し、後世に残したい建築2800件をリストアップしますが、その中に旧マッケレーブ邸も入っていました。

旧マッケレーブ邸の特徴

旧マッケレーブ邸は、①基本的に洋風建築である、②外国人宣教師の設計指導になるものが多い、③木造二階建て下見板張り、④質実な意匠で華美な粧いを持つものは少ない等、これらの宣教師館の傾向のほかには建築的特徴として、ベランダにガラス戸をはめ込みサンルームとして利用したことです。日本の風土は雨が多く季節風や台風などの気象条件に対応するために、明治中期以降ガラス戸を持ったベランダの事例がみられるようになったということです。旧マッケレーブ邸は建築史の変遷を知るうえでも貴重な建物といえます。



雑司が谷旧宣教師館として

住民の熱意と建築学会の依拠により、旧マッケレーブ邸の保存運動はマスコミをも巻き込んだ大きなうねりとなり、1982(昭和57)年12月、マンション建設公示の4ヶ月後には豊島区が買い取ります。その後建物調査と修理工事を経て、1989(平成元)年1月から一般公開を行っています。

建築100周年

このマッケレーブ邸が今年の秋、建築100年を迎えます。マッケレーブは前述の自叙伝に雑司ヶ谷学院については1907年の9月竣工と記録していますが、自宅については建設中と言及しているだけで、雑司が谷旧宣教師館の竣工日は残念ながら不明です。マッケレーブにとっては、青年教育のための場所の確保が最優先課題であり、自宅の完成は二の次だったのでしょう。(当時マッケレーブは45歳で、前年の1906(明治39)年、子女教育(1男2女)のために家族をケンタッキー州ルイヴィルに帰しています。)



(南面)

文化財として

雑司が谷旧宣教師館は現在、豊島区立郷土資料館の分館として位置づけられ、雑司が谷地域の歴史・文化の発掘・継承の場として活用されています。また豊島区では昭和62年に本館を登録有形文化財として登録、さらに平成4年には区内の最古の木造洋風建築として保存、活用するために指定文化財としました。その後、平成11(1999)年3月3日に東京都指定有形文化財(建造物)に、「旧マッケレーブ邸」として指定を受けました。

現在の活用

豊島区では開館以来、雑司が谷旧宣教師館を広く周知するために、コンサートや建築関係および雑司が谷地域にゆかりのある童話・童謡雑誌『赤い鳥』にちなんだものなどの様々な講演や講習会を行ってきました。

また、館の保存運動を行った住民を中心として、毎年春には「花のガーデンコンサート」が開催されました。3年前からは住民の皆さんによって培われた伝統を引き継いで、ガーデンコンサートとして館が主催しています。他にも、地域史の発掘と継承につとめる「雑司ヶ谷ルネサンスの会」作成の『雑司ヶ谷いろはがるた』や地元の写真家の作品展も行っています。

これまでの主な雑司が谷旧宣教師館主催事業（役職等は当時の表記）

〈平成元年〉

「西洋館の見方・楽しみ方」(全4回) □講師：山口廣氏(日本大学教授)

〈平成2年〉

「童話の中の子供像 いま・むかし」(全3回) □講師：関 英雄氏(児童文化者協会理事長)

〈平成3年〉

「日本の中のキリスト教伝来」(全2回) □講師：村田 百可氏(前聖学院小学校校長)

〈平成4年〉

「一人間教育の理想を貫いた人—羽仁もと子の歩み」 □山室 徳子氏(元婦人之友編集委員)

〈平成6年〉

「劇団民芸の女優—斎藤美和の歩み」(全3回) □講師：斎藤美和氏

〈平成7年〉

「雑司が谷旧宣教師館の歴史的背景」(全2回) □講師：小倉 義明氏
(女子聖学院中学校高等学校校長)

〈平成9年〉

「雑司が谷旧宣教師館であそぶ—草木染めとブルーベリー摘み」

〈平成11年〉

◆「区内の近代建築を歩く」 □講師：内田 青蔵氏(文化女子大学生生活造形学科教授)

◆「雑司が谷に理想郷を求めて—マッケーレブと雑司ヶ谷学院について」 □講師：野村 基之氏(J,M,マッケーレブ研究家)

〈平成13年〉

◆「ユーモアと哀感の絵てがみ展」—南瓜のように、茄子のように…戦時下の青春のつばやき— 岡野誠(1907～1939)(雑司が谷生まれ)が戦地から雑司が谷の家族・友人に宛ててかいた絵手紙の展示

◆「窪島誠一郎講演会—生と死の画家たち」 □講師：窪島誠一郎氏(無言館館主・作家)

◆「雑司ヶ谷学事始め」(全2回) □講師：小森陽一氏(東京大学教授) / 多児貞子氏(たてもの応援団)

〈平成14年〉

◆「戦地から雑司が谷へ絵手紙 200 通—画家を志した岡野誠の遺作展—」

◆「雑司ヶ谷村を歩こう」

①「雑司ヶ谷村お宝さがしウォーク」

②「村絵図を歩く(雑司ヶ谷編)」

◆「昭和の雑司ヶ谷」全2回 □講師：小森香子氏(詩人)

〈平成15年〉

◆「歴史的建造物を写す」全2回 □講師：増田彰久氏(建築写真家) / 山口 廣氏(日本大学名誉教授)

◆写真展「写された雑司が谷旧宣教師館」

◆「異文化の中で暮らす」全2回

①「宣教師マッケーレブの日本伝道」 □講師：繁国良明氏(元茨城キリスト教学園高等学校校長)

②「シルクロードの世界」 □講師：鈴木肇(元NHKシルクロード取材団長・中国伝媒大学客員教授)

〈平成16年〉

「都の西北たてものそぞろ歩き」 □講師：伊郷吉信氏(文京区文化財調査員) / 多児貞子氏(たてもの応援団)

〈平成17年〉

◆劇団傾斜空間公演『プチ・トリアノン』(立教大学学生サークル)

◆「宣教師マッケーレブの贈り物」(ブルーベリーの収穫体験含む)

〈平成18年〉

◆「星にまつわるギリシャの物語」(紙芝居&朗読劇) □出演：银杏の会(旧雑司ヶ谷中学校演劇部OB)

◆「としまの村ばなし」 □講師：雑司ヶ谷ルネサンスの会会員、としまbみち草の会会員 ◆「雑司ヶ谷いろはかるた原画展」

◆「福嶋 武 写真展 私の散歩道～昭和の雑司が谷～」

◆「雑司が谷川柳教室」全3回 □講師：鈴木国松氏(NHK 学園講師)

以上のように雑司が谷に因んだもの、この地域や豊島区にゆかりの深い方々のご協力を得て事業を行っています。『『赤い鳥』を語り継ぐ、おばあちゃんのおはなし会』(毎月・第1土開催、読み聞かせ：小森香子氏)は7月で48回目を迎えます。